2003. 3. 3 ポールさんへ送 201

第十三　臨済瞎驢

〔示衆〕一向上人の為めにして己有ることを知らず。直に須らく法を尽して民無きことを管せざるべし。須らく是れ木枕を拗折する悪手脚なるべし。行に臨むの際、合に作麼生。

〔本則〕挙す。臨済将に滅を示さんとして三聖に嘱す。吾が遷化の後、吾が正法眼蔵を滅却すること得ざれ。聖云く。爭でか敢て和尚の正法眼蔵を滅却せん。済云く。忽ち人有って汝に問はば作麼生か対えん。聖便ち喝す。済云く。誰か知らん、吾が正法眼蔵、這の瞎驢辺に向って滅却することを。

〔頌〕信衣半夜盧能に付す。攪々たり黄梅七百の僧。臨済一枝の正法眼。瞎驢滅却して人心々相印し、祖々燈を伝うの憎しみを得たり。いう。海嶽を夷平し、鷂鵬を斐伏す。只箇の名言、比擬し難し。太都手段、都勝を解す。

〔示衆〕一向に人の為めにして己有ることを知らず。臨済禅師の最後の亡くなられる時の話です。そこで最初の「一向に人の為にし

て有ること を知らず 大体最初の垂示と云うものは本則を脱却んで云ってるものです。この場合も臨済大師にあててそう云ってるのです。併し同時に禅の指導をする人に対する心構えです。どんな態度でこの問題に当らなければならないか。師家分上の人の心構えです。先ず一向に人の為にして己有る事を知らず 只人の為だけを考えている。この場合人の為と云うのは、会下の学人即ち坐禅の修行をしている人達。それだけを考えるのが己有る事を知らず。自分の事は全く度外視(とかいし)ですね。たとえば、有名になりたいとか。我々の中にはあるのですけれど、むしろお坊さんの中にはないのですね。法の指導に当ってしてはならない事が二つある。一つは有名になりたいと云う事。人に偉く思われたいということ。もう一つはお金の事。もうお金の事。こうするとお金が入るとか、有利になるとか。それがあったら駄目です。それを道元禅師は名利と云ってをられる。有名にな

りたい、お金をもうけたいと云うのが名利です。この二つが頭にある間は人の指導をする資格が無いと云ってもおられる・この間、郷里へ行って、お寺へお参りをして来たのですけれどもまるで法の事は全然念頭にないと云っていいですね。不思議なことになったものです。田舎のお寺などは有名になりつこないですから有名になり度いと云うのは東京など中央にいるお坊さんでしょうけれどもね・大体お寺を、あのお寺にはたんか壇家が何軒位あるかとか、そういう事が主眼になるのです。尊する仏日本の寺というのは、私は外の宗派の事は余り知りませんけれども、少くとも禅門、とくに曹洞宗・私自身の家が曹洞宗なものですから。お寺で法の修業なんても のは殆どしない。そしてお経を読むとお布施が入るという一種の商売です・一檀のお寺経営と云う商売ですね・ともかくお寺の経営とお葬式はお坊さんに委せましょうけれ

ども法の修行は我々居士が引受けた。と。当分の間は(そうです。)・そのうち皆さんの状況が変化してくるかもしれないけれど当分の間修行はこちらが引受ける。実際墓守りをして貰わないと困るのです・お寺をよろしくお願いします・その代り法の修行のお方はこっちが引受けると・そんな気持で帰って来ました・「一向に人の為にして有る事を知らず」と只、人の為、学にならうとか、何とか、自分が有名人の為、修行者の為のみ考える・自分が有名な事を考えない・そんな凡情が現われたら厳に慎むべし」法を尽してと云うのは国の政治の事にまでも考えているのです・国には法律というのが有るけれども、法律を余り厳しくやると誰もその国に居なくなってしまうと云う。これは古い支那の話でしょうから、現在のような大きな支那の大陸が、一つの政府によって支配されているという時代ではない。日本もそうでした・封建時代には殿様が居っ

てそれぐ分割して統治されておつたのです。そこの国の法律が余りにも厳しくてその法律を施行すると誰も居なくなってしまう。「民無きことを管せらるべし」そこに人民が居なくなる事を心配していてはいけないと云うことです。それを我々の禅の世界に当てはめますと、非常に厳重にやると誰も寄つてつかなくなつてしまう。皆、弱音を吐いて、誰も来なくなる。それを気にしておつてはいけない。来なければ来なくていいです。お寺では、そんなつまらぬ話しをしようと壇家が何軒あるという事とが、自慢の種になつたけれども、このような坐禅会では来る人が何人来たというようなんだんだん多くなつて来る。いいんだか、悪いんだか、本当に厳しくやつたら一人も来なくなるかもしれない？昔も偉い禅師方で、薬山禅師でしたか、せいせい十五人位だつたようです。そこ

に止まっていれば雲水さんを大変厳しく指導されれば・そういう厳しい修行によって、法というものが正しく伝わって来たのです・余りゆるめてしまうと、人はどんぐり集まるかもしれないが、本当の本物と云うものは伝えられない。ワラヤスで日本の誰やらさんが行ってお弟子が二萬人もあると威張っているとか。そんな事では、本当の法というものは伝えられないのです。やっぱり禅のやり方と云うのは、昔からいわれるよう一箇、半箇・一人でも二人でも。本物を伝える。その人が又他の処へ行って又、お弟子さんを修行させるのです・だんぐそうした形でもっていい広がり伝わって行くのが本当なのです・それを一つの処へ何千人、何万人集めてやってもいい、本当の禅というのは伝わりません・ですから假令ここで仕上った五人が三人居るとします・そうすると、その三人が三ケ所で、それぞれ又三人仕上げるとします・そういうふうにだん広がって、伝わって行くのが本当なので

す。て須らく是れ木枕を枡折する悪手脚なるべし。悪手脚とは、良手段を云う。木枕と云うのは、木の枕をしていれて折する。ぶち切る。と云って悪辣な手段ではなくて、本当の人を指導する。本当の禅坊主を仕立て上げるには、木の枕をぶち割るような悪辣な手段でなければならない。その木の枕をぶち割るというのは、昔から色々と例がある訳でありまして、天皇道悟と国師との問答に出ている。それをここでは不枚挙人が借りて来て云っておられます。と云うのはこんな事でありまして、石頭希遷禅師の法嗣で、薬山惟儼禅師と云う人が臨終の時に、典座和尚を呼ばれた。そこで典座が進み寄ると、しばらくしてとしておられましたから「分ったか」とおっしゃった。「分った」と云うと典座が「不会」いいえ分りません。

ません。師匠が遷化されよ。うとする時、まだ分らない。そうすると道吾は木の枕をとってパッと床に叩きつけていといいます。そしてそのまま従容として亡くなって行ったといいます。禅の坊さんの死に方は格別ですね。まだ分らんか!!

す。これ悪辣の手脚とね。そしてスーと亡くなった。中々出来ない事です。禅の坊さんの死に方は格別ですね。まだ分らんか!!

。もう一つある。無尽居士という居士がいます。がね

この人が亡くなる時、一つの詩を残していらしい。泡生泡滅のようにに生れて来て泡のように死んで行く。人の死を為す。自分の実体を誰も知らない。虚空を消破してかえりなん

いぞ。さあ帰ろう。虚空とはエンプティから

つぽ。これを消破即ち打破って、それを全部なくしてさあ帰ろう元来た処へ。何処から来たのか知らんけれど帰ろう帰ろう。その次は

鉄牛海に入って消息なし。鉄牛(注)鉄の牛です。それが海に入って全くなくなって。色々禅的な意味がありますが、時間がないから詳しくは

申しません。（この頃に）一つの詩を作って、それを口でおっしゃった。そして云い終るや、自分の木の枕をとって入口のドアにパッと投げつけた。その音は雷のようだった。昔の本に書いてある。皆びっくりしてる間に口元に微笑を浮べてスーと死んで行かれたと云う。誰かあ[注]要するに死ぬ際の大珠大用を云っている。とにかく、木の枕を投げつけるのも大珠大用の働きを示した。そう云う故事を頭においてこれを云っている。と大珠大用がなければならぬ。行に臨むの際にかく、木の枕をふり割るような、そう云うのは行事をんですけれども、臨終の時の事。臨終の際の死にざまを見よという事です。臨済大師がどういう死に方をしたかよく見なさい。」拳す。臨済将に滅するに示さんとして三聖に嘱す（ぞく）」臨済大師が将にこの世からお別れをしようとする時です。三聖と云うのはお弟子さんで臨済大師の一粒種だったと云われている有名な方です。けれど

【本則】

も消息が殆ど解って居ります。三聖がいろいろ問答されたのは禅錄に出て来るけれどもなり、何時何処で亡くなられたか分らない。その三聖に後の事を頼んだ。そしてこうおつしゃる。「吾が正法眼蔵を滅却することを得ざれ」と。わしが亡くなった後、わしの正法眼蔵をなくしてしまってはいかんぞよ。という事です。三聖がいろいろ問答されたのは禅錄に出て来るけれどもなり、何時何処で亡くなられたか分らない。その三聖に後の事を頼んだ。そしてこうおつしゃる。「吾が正法眼蔵を滅却することを得ざれ」と。わしが亡くなった後、わしの正法眼蔵をなくしてしまってはいかんぞよ。という事です。これはしかし臨済大師が三聖を最後の点検をしておられる事となります。正法眼蔵と云うのは佐承知のような道元禅師の正法眼蔵がありまず。無門関の「世尊拈花」という処「世尊云く、吾に正法眼蔵、涅槃妙心実相無相微妙法門あり、不立文字、教外別伝なりし」とある。お釈迦様が自分ト正法眼蔵、涅槃妙心云々！まだがあるとえらい難かしい事をおつしやってる。ようだけれど、何の事かと云うと、イツセンシヤルネイヤーの事です。イツセンシヤルワールドの事です。それが正法眼蔵、これでも同じ意味です。これをなくしてしまってはいかんぞ

よ。そうすると聖云く「爭か敢て和尚の正法眼蔵を滅却せん」とお師匠さまの正法眼蔵即ち眞の法をどうして滅却しましょうや。絶対滅却する事はございませんと。こう云つた。これに二つあります。一体全体正法眼蔵というものが、滅却出来るものかというかと云う事です。いかでか和尚の正法眼蔵を滅却せんという事とを本質の方からみると、何か起ろうと誰が何をしようと、どんな迫害を受けようと式は、悪魔が何万人襲つてこようと、この正法眼蔵を滅却出来る筈のものじやあないので す。キリスト教も私もよく知らないけれども そうでしょうね。悪魔が何万人こようと、それに依つて潰される筈のものではないでしょう。本質的に云うとそうですけれども又現象の方面から云うと正法眼蔵というものが滅却されようとしている。現在の神の様子を見て仏覚なさい。正法眼蔵は何処に在りや。お寺な確かに皆で護持して行かねばならない。それがお金の事ばつかりつて檀家は何事

たなつたんかすど、そんな事ばかりをつている。本当の仏法が護持されていないのです。一面そんなことになつている・かうんぬんと云うのは三聖は両才見てをつている・そりでそう云う返事をしたのです・処が臨済大師はもう一度点検する・もうこれでお別れだから最後のとどめをさす処です・「人有つて此に問わばそもさんか対えん」もし人がやつて来て臨済大師の法はどうなんだと問われたら一体お前は何と答えるのだと。そうするとつて一喝するといいだれいですね・これ何でしょう。三聖が正法眼蔵そのまゝを出してみせた処のです。「クワツ!!」とね・そうすると三聖すなわち喝すと。「クワツ!!」と身をふる臨済大師云く「誰か知らん、吾が正法眼蔵この瞎驢辺に向つて滅却することを」瞎驢辺に向つて滅却すると云うのは色をなびきかあります。瞎驢と云うのは盲目のロバの事です。エチエンさんがでうイントドンキーと云う小冊子を迷つて来ますけれど、あれはここが

ら取ったものかと思います。ブラインドドンキーとは何ですか？と言うと、頭で考える事がないという事です。頭が全部なくならなければいけないのです。そうブラインドドンキーとなって、目蔵はこのブラインドドンキーによって、目茶苦茶にさいてしまうだろうと将来の事に讃む人もあるけれども、一喝よって正法眼蔵は、全く滅却さいてしまったと言われた。涅槃妙心とか実相無相とか。しかし皆観念です。アイデアです。そんなものがある間は本当の正法眼蔵ではない。その正法眼蔵を喝!!と一喝のもとに吹飛ばした。その時はじめて正法眼蔵が現われるのです。ですからこの瞎驢辺に向って滅却して影も形もなくなってしまって初めて清大師は嫉しかったわいと。これに違いありますね。三聖こそは本当によく正法眼蔵をつかまえてく

れ・・昔の人はこの一喝に「直の獅子はよく獅子吼す」と。本当のライオンの子は本当のライオンらしく吼えるというのです。うオ〜!!とね。その一喝に定まったと昔の人はいっている。そしてこの後で従容として死なれた。正法眼蔵の文字の中や観念の中に求めておられ一喝に依って主観とお掃除しつくしてる。これを臨済の四料簡の中でいうなら「人境俱奪」です。人は主観境が客観、ともに奪いつくしたのです。この一句です。その後から本当の大自然に還って来なくてはならない。喝と云ってくる。そうでないと宗教活動は出て来ない。人が救えない。人が救えない。人境俱奪では人を救おうと思っても人が救えない。救うべき人が居ないのだから。

丁度、昨夜寝ていて今日の提唱を考えた時、映画を頭に思い浮べて、次から次とスクリーンに写るのです。カーツ〜!!の一喝で映画のイ

メージがらスクリーンの映像が消えて真白なスクリーンだけが表われる。人境具奪です。それを眼に障ゆる雲の端もないと云う。真白いスクリーン丈が表われる。ともかく何もないのだから。人を救おうにも人っ子一人いないのだから。そうじゃあなくて、その後、又映像が現われて来なければいけない。普通の我々の世界が現われてくる。その中で、七転八倒一生懸命人の為に尽すのでなければいけない。禅の立場から云うと、一度このイメージ全部を払いすてて真白いスクリーンを見て来ないといけないのです。その上での活動でなくてはいけないのです。このスクリーンが何もなくて気持がいいものだから、そこに膠着けている。それは何の役にも立たない穀潰しですね。どんなに悟りを開こうとも何も人の為にならないのなら、何の役にも立たない穀潰しだと云う事になるのです。只、そこにとどまってはいけない。もう一ぺんその体験を身につけて、そして社会の中へ出

て来なくてはいけない。苦しんでいる人と一
諸に苦しむ。只、苦
みをきくつかけとして苦しむたけでなくその苦し
む。それが本当ではないかと思います。「吾
が正法眼蔵、この瞎驢辺に向って滅却するこ
と乞う」臨済大師非常に嬉しかったに違いない
。従容として死んで行かれた。ですからその
臨済錄の中に、行錄と云うのがあって、それ
には、云い終って、端処として寂を示す。と
ある。臨済錄には語錄と堪弁と行錄とがあり
ますが、その一番最後にこれがある。お亡く
なりになる時の行錄の最後です。「信衣半衣盧能に付す。」横々たり黄梅七百
の僧」この信衣半衣盧能に付すとそうお話は
何回も出ていますから、誰も知らないと思います。六
祖慧能禅師が五祖弘忍禅師から法を嗣がれた
時は、六祖慧能禅師はまだここにはつきりして
おられたのだけれども、知っ
てるのは五祖のお師匠さんだけ。米搗き小屋
の労働者だけ。いろいろな話があるのです。けれ

とも最後にその五祖弘忍禅師の後継者となられた。黄梅と云うのは、当時弘忍禅師のおられた山の名前で、黄梅山。そこには大体七百人の坊さんがいたのです。それがわんわんと大騒ぎになって。誰が法の後継者になるのかと思っていたら、豈図らんや米搗小屋で仆いておった盧能が指定されたのだから大変な騒ぎになって。大体、誰が後継者になるとかなどもね、黄梅七百の僧と云うのは大抵その禅らんとか騒いでいるのはおかしいのですけれども。臨済一枝の正法眼蔵・涅槃妙心を大だいじゅ和尚とも云って来た。その大樹の一枝の正法眼蔵と云うのは、臨済大師の事度の人だったのでしょう。臨済一枝の正法眼蔵と云うのは、臨済大師の事

清大師は黄檗和尚会下にあって三年間非常に綿蜜に修業して居られたけれど、三年間一度も独参をされなかった。そこで、その時有名な首座睦州と云う雲門大師の足を折つ

たという人が、非常に気性の烈しい人であったので、臨済大師に、それが兄弟子であるお前というして独参しないのかと聞いた。「おれは老師の処へ伺っても何と申し上げてよいか分らないから独参しません」と云った。そうかそんなら「如何なるか仏法滴々の大意。」仏法の切々の処はどんなものですかと。そう云って聞けと教えてくれた。そこで云われた通り、臨済大師は黄檗の処へ行った。「如何なるか仏法滴々の大意。」という終るやいなや「ピシャッ!!」と打たれた。三十棒かな。その夜はすごすごと帰って来て睦州に報告した。「貴方のおっしゃる通り仏法滴々の大意とは云わずピシャッ!!とやられました」と云ったら睦州もう一ぺん行って来いと云った。又行った。同じ事を聞いたら又ピシャッ!!とやられた。三回やっても駄目なのです。

禅道場で真剣な修業は、禅の修行をそうもんかれても気がつかないのは厳しさです。そうした事なの

れでとうく臨済も睦州に、貴才のおつしやる通りにしたのですけれとも、とうしても自分の過去世か何かの因縁があつて駄目なのでおいとましたいと思います。するとそつれ。するとそつれ。睦州はそう。かそんなら印度師の処へ行つておいとましなさいとそつれ。それと同時に睦州は黄檗の処へ行つたのです。前の臨済とそう若僧は仲々見所がある。あれを本当に仕込めれば将来大樹になるでありましようとそつて大樹になつて陰涼樹。大きな木んすつて影を作るそれを陰涼樹とも云います。印度のような熱い処では涼しい樹下で休むと、涼しい風が吹いて気力が回復する。それを陰涼樹とそう。それんなれる男ぴと思います。大樹になれるであります。そこから出た。大樹和尚と云われれとそう。そこから出た。その一本の枝。三聖の事をそつてるんですよ。「暗驀滅却して人の憎しみを得たり」と暗驀滅却してとそうのはこの暗驀辺に伺つて滅却する事を誰か知らん。この事実を知つてるも

のが一体あるのだろうか。わしの正法眼蔵がこのめくらの驢馬の処でもって目茶苦茶になってしまった事を一体誰が知っているのだろうか・これは証明の云葉です。証明の云葉です。頂いて後継になったわけです。そうすると、さつきの黄梅ではありませんけれども人の憎しみを得たりでやきもちをやかれるわけです。「心々相印、祖々灯を伝う」心から心へと法が伝えられて行くのです。ここでは臨済大師から光が伝えられて行くのです。三聖へ済の光が伝えられて「海嶽を表(あら)わし、鯤鵬(こんぽう)を変化す」海も山も平らになり、波風がたたなくなる・本当の心の平安を得るのです。三聖の一喝によって、臨済大師その人が心の平安を得て従容として なくなる事が出来たのです。同時に鯤鵬を変化すと云う自在、自由自在のはたらきという事です。鯤(こん)と云うのは支那の「荘子」という本に出てまるけれども大きな魚。その大きさは幾千里と云うかと云えらい巨大

魚。それが鳥に変化する。などとは普通考えられないのだけれども、支那にはどこか偉い思想を考える人がある。巨大魚が大鵬に変化する。鵬は仙人が大きい鳥で鯤という大きな魚が鵬と云う大きな鳥に変化した。変化させる力、即ち、自由自在なのです。翼が空にかゝった雲の様だと云うのだから、鵬も知らない素晴しい大きな鳥です。その見して仏様にしようと云うのだから。鯤鵬を変化する沙汰ではないね。普通の人だと思っていたのが一度、徹底的な見性するとたんに仏になるんだから鯤鵬に変化すです。」

只管の名言、比擬し難しこの名言。云葉は比べるものがない。この云葉とは何を云って居るかゝ一つは喝ですね。クワツ!!。もう一つは瞎驢辺に向って滅却する。誰も真似の云葉。比擬し難しとは比較を絶する。誰も真似仲がないという事です。太鼓半鼓、鼾騰を解すこの大力量。禅者としての本当の力。を

れが自由自在だ」と云う。翻勝を解すの「解す」とゝうのは理解すると云う事ですけれども実を知る・自由奔放に働く力を蔵している」翻勝を解すL一言半句ことごとく自由奔放に説きつくしている。偈多!!。